

# 令和5年度の学校教育の努力点とその推進計画

(1) 研究主題 自分がしたいことは、これだ！

— 自分でプロジェクトの課題を決め、ゴールに向けて取り組もう —

(2) 主題について

社会が劇的に変化する中で、子どもたちが自らの可能性を最大限に伸ばし、人生をたくましく生きていくことはとても大切なことであり、私たちの願いでもある。学校がすべての子どもにとってよりよい成長の機会になるよう、子ども一人一人の興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められている。

子どもは、自ら発した問いを課題として設定し、それを解決するためのゴールを想定することにより、探究の方向付けをすることができると思う。さらに、子ども自身が発した問いに基づく課題なので、プロジェクトが自分ごととなり、子どもたちの主体的な取り組みを引き出すことができると思う。

また、実社会の経験が乏しい子どもたちが、自分事として、プロジェクトを立ち上げるための仕掛けが「ふれる」活動となる。この活動が充実することにより、課題やゴールが設定しやすくなり、探究が深まっていくと考える。

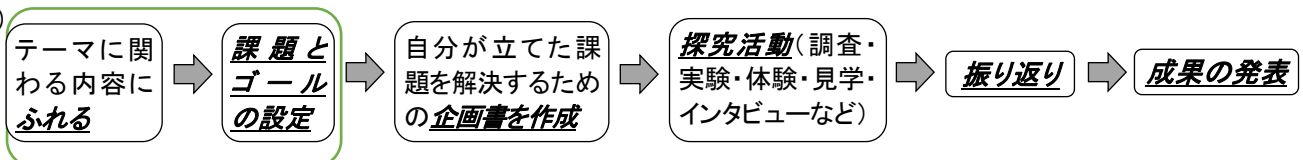
そこで今年度は、プロジェクト型学習のスタートとなる「ふれる」活動を充実させ、そこから問題意識をもたせ、自分で課題とゴール設定をさせることに重点を置き、授業実践を進めていきたい。

(3) 研究の内容と方法

① 課題解決型学習【プロジェクト型学習】の進め方

以下のようなプロセスで進めていくことが多い。

(例)



学年内で同じテーマ、プロセスで進めていく。

② 実践教科・領域について

1・2年生は生活科、3～6年生は総合的な学習の時間が、課題解決型学習を進めていく上で取り組みやすいと考える。

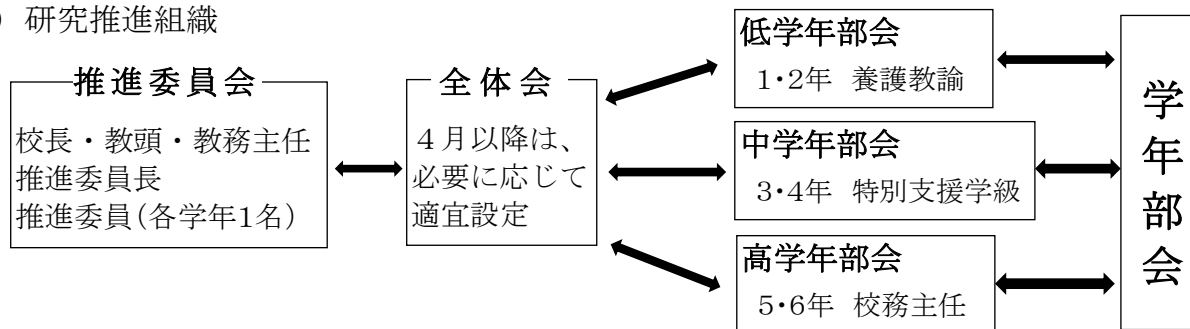
③ 授業実践の公開

学年内で同じテーマの課題解決型学習を進めていき、プロセスの様子を公開授業とする。どのプロセスを公開するかは学年部会で相談して決める。学級ごとで異なるプロセスを公開することが望ましい。

全担任が1回以上授業実践を公開し、学年で事前検討会、事後検討会を行う。授業を公開する際は、事前に授業メモを全職員に配付する。

公開授業は、基本的に部会全教員が参観することが望ましい。他の部会の職員も事前検討会・授業参観・事後検討会に参加してもよい。

(4) 研究推進組織



(5) 研究推進年間計画

時期	推進委員会	全体会	学年部会
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究主題の設定</li> <li>○ 推進計画の作成・決定</li> <li>○ 研究組織づくり</li> <li>○ 研究計画の検討</li> <li>○ 授業実践計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究主題の確認</li> <li>○ 研究内容、方法の確認</li> <li>○ 公開実践の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究計画の検討</li> <li>○ 実態調査の実施</li> <li>○ 実践計画の立案</li> </ul>
5月 ～ 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業実践の参観</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人一授業実践</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 来年度の方針決定</li> </ul>		
3月			